

# りそな 経済フラッシュ

## (日本10-12月期GDP1次速報値)

◎注意事項をよくお読み下さい

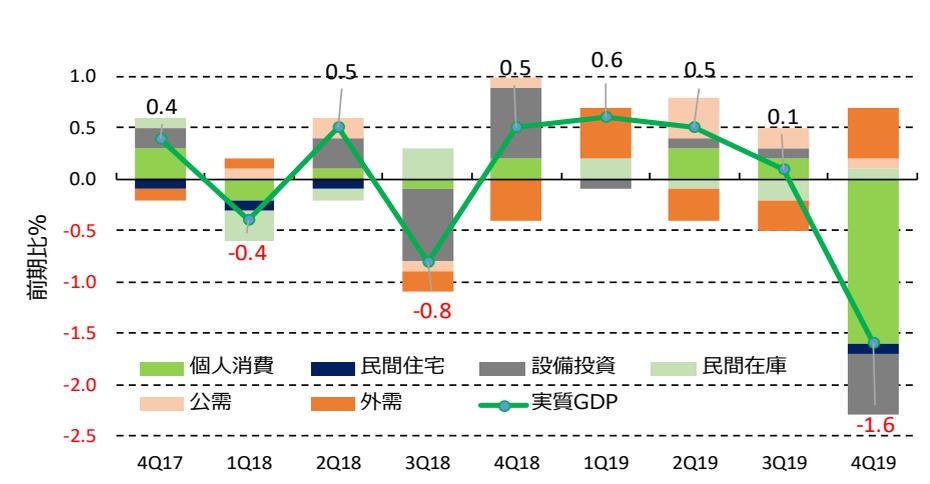


### 〇概況

- ◆10-12月期GDPは前期比▲1.6%と5四半期ぶりのマイナス成長
- ◆設備投資、個人消費が増税前の駆け込み需要の反動等で、大きく落ち込んだ
- ◆GDPデフレーターは前年同期比+1.3%

- ✓ **2019年10-12月期実質GDP1次速報値は、前期比▲1.6%（年率▲6.3%）と5四半期ぶりのマイナス。**市場予想（前期比▲1.0%、年率▲3.8%）を大きく上回るマイナス幅となった。
- ✓ 内訳は**内需の弱さが目立つ**。個人消費が同▲2.9%と消費増税前の駆け込みの反動や台風、暖冬の影響もあり、市場予想（同▲2.0%）を上回るマイナス幅。設備投資も同▲3.7%と市場予想（同▲1.6%）を大きく上回るマイナス幅となった。
- ✓ 一方、**外需（輸出-輸入）がプラス寄与**。輸入が前期比▲2.6%と消費増税前の駆け込み需要の反動や内需の低迷で押し下げられたことが主因。米中通商交渉の不透明感から、輸出は前期比▲0.1%と2四半期連続のマイナスとなっており、低調であった。
- ✓ **GDPデフレーターは前年同期比+1.3%と4四半期連続で上昇。**
- ✓ 2014年の消費増税時には増税前の1-3月期の個人消費が+2.0%となった一方、4-6月期に▲4.8%と反動減が目立った。**今回の個人消費は、政府の消費増税対策に一定程度の効果があったとみられるが、台風や暖冬の影響が想定を上回ったと言える。**
- ✓ 1-3月期は新型コロナウイルスの影響が注目される。2003年のSARSの局面と比較して中国の日本経済に対する影響は増している。**今後の日本経済は、訪日外国人の減少がどの程度になるか、中国の工場操業停止がどの程度続くかが焦点となる。**

【実質GDP成長率 需要項目別（前期比）】



	前期比	2018		2019		10-12
	寄与度%pt	10-12	1-3	4-6	7-9	
実質GDP		0.5	0.6	0.5	0.1	-1.6
民需		0.9	0.2	0.4	0.2	-2.2
個人消費		0.2	0.0	0.3	0.2	-1.6
民間住宅		0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1
設備投資		0.7	-0.1	0.1	0.1	-0.6
民間在庫		0.0	0.2	-0.1	-0.2	0.1
公需		0.1	0.0	0.4	0.2	0.1
政府消費		0.1	-0.1	0.3	0.1	0.0
公共投資		-0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
公的在庫		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外需		-0.4	0.5	-0.3	-0.3	0.5
輸出		0.3	-0.4	0.1	-0.1	0.0
輸入		-0.7	0.8	-0.4	-0.1	0.5

【出所】内閣府、Bloomberg、IN情報センター

◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。